

大豆管理情報 (第2号)

1 気象経過

(1) 気温

6月の平均気温は、22.0℃(平年差+0.6℃)と平年より高く、7月上旬は24.9℃(平年差+0.7℃)と平年並だった。

(2) 降水量

6月の降水量は、102.0mm(平年比59%)と平年より少なく、7月上旬は138.0mm(平年比147%)と平年より多かった。

(3) 日射量

6月の平均日射量は、19.3 MJ/m²/日(平年比112%)と平年より多く、7月上旬は12.6MJ/m²/日(平年比81%)と平年より少なかった。

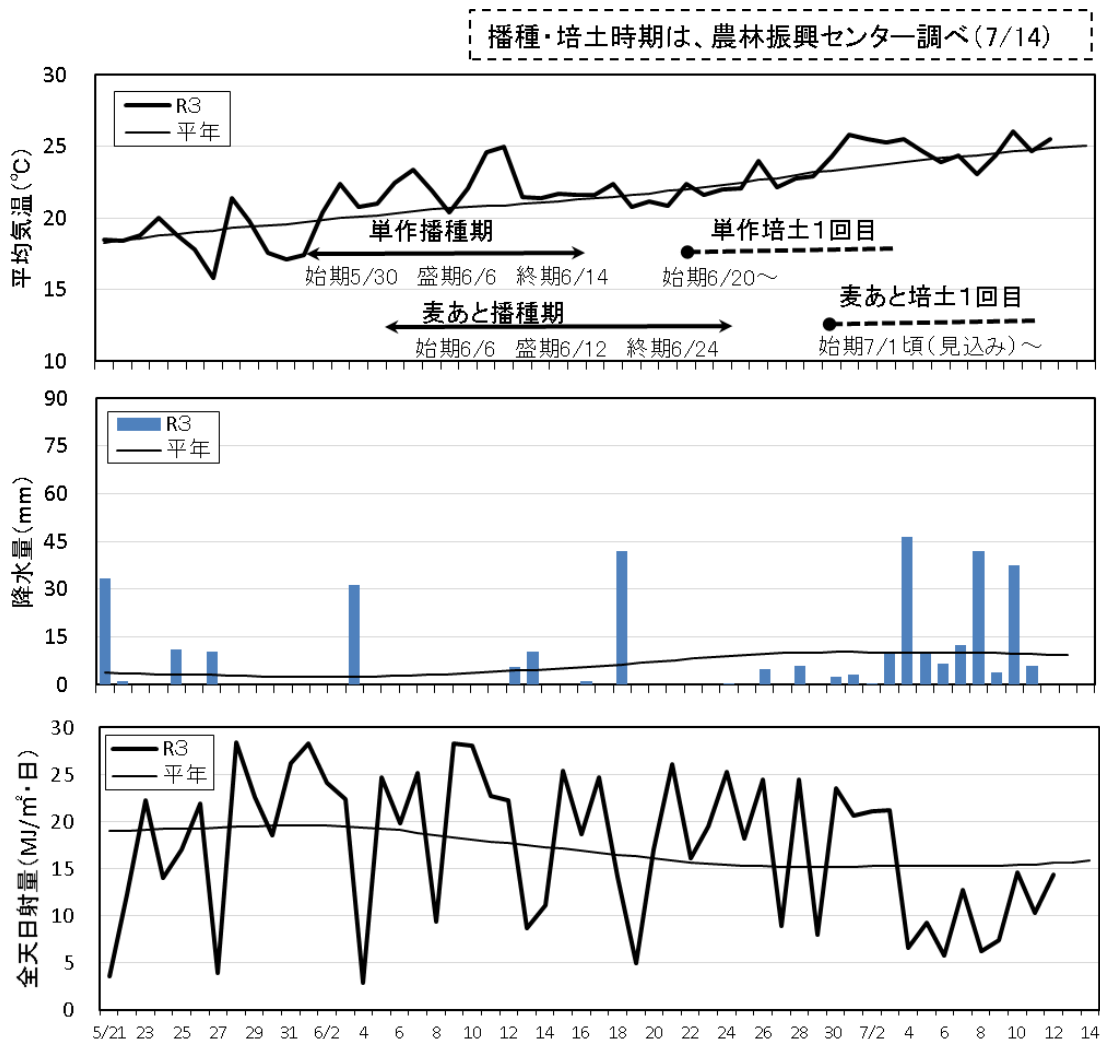


図1 令和3年の気象経過(富山地方气象台)

2 生育経過（生育観測ほデータ）

(1) エンレイ（単作）

単作は、主茎長 47.5cm、本葉葉数 7.7 葉、一次分枝数は 0.7 本であった。
 平年に比べ主茎長は平年並み、本葉葉数、一次分枝数は少なくなっている。
 一部のほ場で開花がみられた。

(2) エンレイ（麦あと）

麦跡は、主茎長 40.3cm、本葉葉数 7.0 葉、一次分枝数は 0.5 本であった。
 平年に比べ主茎長はかなり長く、本葉葉数は多く、一次分枝数はかなり多くなっている。
 開花はまだみられていない。

(3) シュウレイ

主茎長 35.3cm、本葉葉数 6.5 葉、一次分枝数は 0.3 本であった。
 開花はまだみられていない

表 1 大豆生育観測ほ調査結果（7月15日現在）

		播種月日 (月/日)	栽植本数 (本/m ²)	生育調査(7月15日)			開花期	
				主茎長 (cm)	本葉葉数 (葉)	一次分枝数 (本)		
エンレイ	単作	R3	6/2	16.3	47.5	7.6	0.7	—
		R2	5/29	15.6	53.3	9.2	0.9	7/17
		平年	5/29	16.3	48.7	8.8	0.8	7/17
		平年比(差)		4	100%	98%	-1.2	-0.1
	麦あと	R3	6/7	17.1	40.3	7.0	0.5	—
		R2	5/31	16.1	46.8	8.7	0.7	7/19
		平年	6/8	16.8	31.7	6.1	0.4	7/23
		平年比(差)		-1	102%	127%	0.9	0.1
シュウレイ	R3	6/5	16.1	35.3	6.5	0.3	—	
	R2	6/4	14.9	37.9	6.4	0.0	7/26	
	平年	6/5	15.3	37.4	6.4	0.4	7/22	
	平年比(差)		0	105%	94%	0.1	-0.2	—

注1) 調査ほ場数: 単作エンレイ(5ほ場)、麦跡エンレイ(3ほ場)、シュウレイ(単作2ほ場、麦跡1ほ場)

注2) 平年値はH23~R2

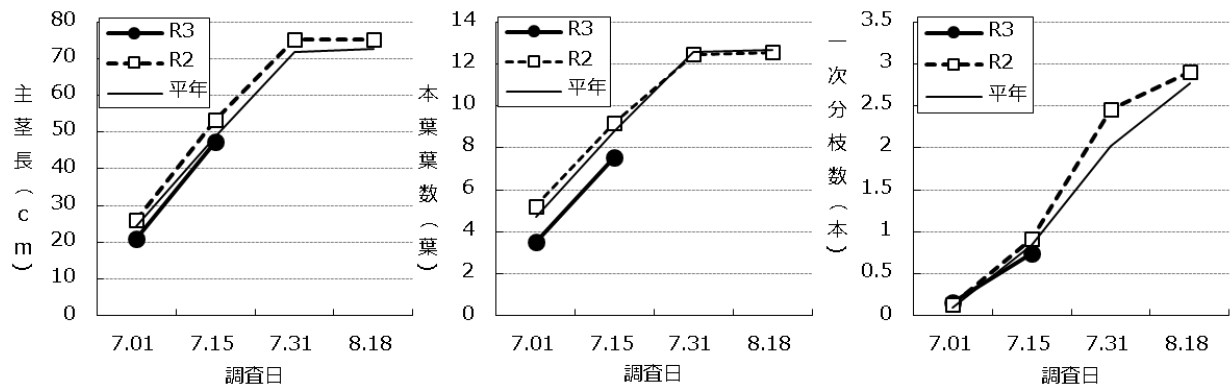


図 2 単作エンレイの生育の推移

3 当面の技術対策

○晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、積極的に畦間かん水を行う。
 ○培土後に残草がみられる場合は、雑草の種類や葉齢に応じて茎葉処理除草剤を適切に使用する。

(1) 開花期以降の畦間かん水の実施 ～莢数確保による青立ち発生防止～

- ・開花期以降、3日以上晴天が続くと見込まれる場合は、積極的に畦間かん水を行う。
- ・7月14日に梅雨明けし、週間予報では今後晴天が続くと見込まれることから、土壌が乾燥しないよう確実にかん水を実施する。

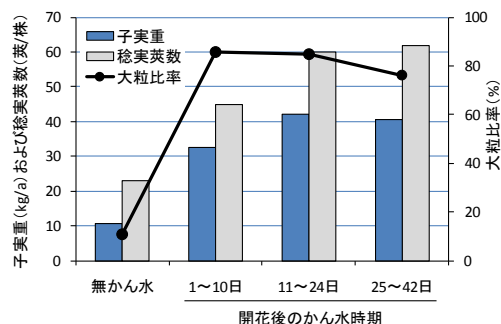


図3 かん水時期と収量の関係 (H14 農試)

【畦間かん水の効果】

① 莢数の確保

- ・落花・落莢の防止 (青立ちの発生防止)

② 百粒重の増加

- ・根の養水分吸収量の増加
- ・光合成の促進
- ・根粒による窒素固定能の維持

③ 品質の向上

- ・ちりめんじわ粒の発生防止
- ・茶色のしみ状斑紋粒 (高温に伴う物理的損傷) の発生防止



ちりめんじわ粒



茶色のしみ状斑紋粒

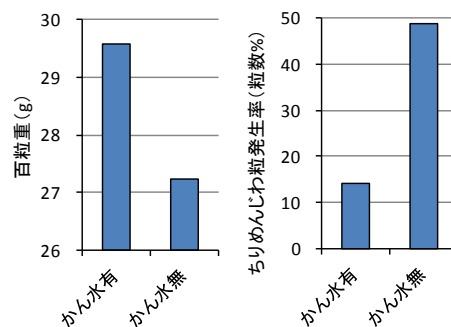


図4 かん水の有無が百粒重やしわ粒の発生に及ぼす影響 (H24:富山農振セ)

注) かん水有区: 2回かん水実施

- ・かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止めて速やかに排水する。

(2) 入排水路の手直しと確実な連結

- ・畦間かん水時の入排水や降雨後の排水をスムーズにするため、溝の手直しや連結、排水口の掘り下げを確実にを行う。

(3) 2回の培土を実施 ～生育促進と雑草対策～

- ・生育量を確保するとともに、雑草を防除するため、2回の培土を実施していないほ場は、ほ場条件を確認し、晴れ間をみて速やかに行う。なお、作業は丁寧に行い、株元までしっかりと土をかける。



畦間と額縁排水溝を連結し、排水を促進

(4) 適期の病害虫防除 ～ほ場を巡回し、早期発見、適期防除～

- ・ウコンノメイガ: 生育が旺盛で葉色が濃いほ場で発生が多く、多発すると小粒化し、減収する。防除要否基準に従い、幼虫による葉巻の発生量を確認し、必要に応じて8月上旬まで(若・中齢幼虫期)に遅れず防除を実施する。

〔防除要否基準〕7月6半旬の大豆1株当たり平均葉巻数: 6個以上

- ・葉焼病: 発生が認められたら、Zボルドーなどで防除する。なお、シュウレイについては、7月下旬頃に予防散布を実施する。

強風雨で蔓延するため、台風等により葉が損傷した場合は、速やかに防除を行う。

(5) 雑草防除の徹底

～帰化雑草は早期発見・早期防除が重要～

- ・雑草の発生が多く培土後に残草がみられる場合は、雑草の種類や葉齢に応じて茎葉処理除草剤等を散布する（表2）。
- ・難防除雑草（帰化雑草等）の発生がみられるほ場では、雑草が小さいうちに（帰化アサガオ類の場合はつるになる6葉期前）に防除を徹底する。また、防除後も再度雑草が発生することがあるので、発生状況に応じて、継続的に防除を実施する。
- ・ほ場周辺（畦畔、農道等）で難防除雑草の発生がみられる地域では、発見次第、直ちに防除（除草剤散布、地際からの刈取り）する。



ツルが発生し始めた
マメアサガオ

表2 大豆の生育期処理除草剤

種類	対象雑草	除草剤名	使用方法	使用時期			使用回数	除草効果についての留意点		
				時期	雑草の生育ステージ等	収穫前日数				
選択性除草剤	1年生イネ科	ナブ乳剤	雑草茎葉散布	全面散布	雑草生育期	イネ科雑草3～5葉期	30日前まで	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・適用雑草としてスズメノカタビラを除く。 ・広葉雑草及びカタツリグサ科には効果が期待できない。 	
		ワンサイドP乳剤			雑草生育期	イネ科雑草3～5葉期	60日前まで	1回		
		ポルトフロアブル			雑草生育期	イネ科雑草3～10葉期	30日前まで	1回		
	1年生広葉	大豆バサグラン液剤			大豆2葉期～開花前	雑草の生育初期～6葉期	45日前まで	1回		<ul style="list-style-type: none"> ・アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科、ツユクサ科の雑草には効果が劣る。 ・イネ科雑草には効果がない。
非選択性除草剤	1年生雑草	ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉兼土壌散布	畦間処理	雑草生育期	-	前日まで	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・非選択性除草剤なので、大豆にかからないように十分注意する。 	
		ザクサ液剤					28日前まで			ザクサ及びバスタ3回以内
		バスタ液剤					28日前まで			
	ロロックス	雑草茎葉兼土壌散布	畦間・株間処理	大豆5葉期以降雑草生育期	-	28日前まで	1回			
	1年生広葉	タッチダウンiQ	雑草茎葉塗布	大豆着莢期以降雑草生育期	-	7日前まで	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・専用器具を使用する。 ・塗布処理場所は茎とし、大豆の草冠より上の10～15cm部分に行う。 		

吊り下げの専用ノズルを用いた散布のポイント	株間処理 ※大豆にかからないよう注意	畦間・株間処理 ※大豆の本葉にかからないよう注意
<ul style="list-style-type: none"> ・大豆や雑草の大きさ、処理方法によってノズルの高さや角度を調整する。 ・雑草全体に除草剤が十分に付着するように散布する。 		